

「問い」を発し、思考を深め、主体的に表現する児童の育成

～国語科における、学びを生活につなげるNIEの実践を通して～

高千穂町立高千穂小学校

指導教諭 橋本香織

1 主題設定の理由

「なぜ?」「どうして?」という「問い」があつてこそ、学びが始まる。グローバル化や高度情報化といった新たな状況に対応するための新しい学びの在り方が、問われている現代社会。常に膨大な情報に囲まれながら、情報を読み解き、分析を加え、必要な情報を選択する方法を身をもって学ぶ姿が必要とされている。それは、将来自立した社会人となるよう、問いを基にして公の場で、自分の考えを自分の言葉で積極的に表現していく姿が求められているからである。これは、「問い」を発することができる人材が、課題解決へ向け考えを深め、よりよい答えや新たな「問い」を見出し、主体的に表現することで、時代の担い手として地域を支えていける人となり得るからである。そういった人材を育成するには、教育と新聞が関わるNIEが有効であると考える。

本学級の児童(第6学年27名 男子15名、女子12名)は、その半分が昨年度からの持ち上がりである。受け持った当時は、家庭の新聞購読が48%であり、ほとんどの児童が新聞を手にする環境ではなかった。学校生活では、とても素直で、与えられた課題は解決しようとするが、興味関心が長続きせず、途中で投げ出してしまう児童も少なくはなかった。会話も単語だけが飛び交う場面が多くみられ、自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもつ児童も見られた。

文部科学省の全国学力・学習状況調査の結果を見ても、新聞を読む児童は、新聞を読まない児童に比べ、正答率が高いことが明らかになっている。

新聞記事は、「逆三角形」の構成である。この方法原理を身に付けさせると、高次のコミュニケーション能力の育成にもつながる。また、新聞を活用して様々な言語活動を積み重ねれば、記事に書かれた出来事や人々の動きへの関心を促し、主体的に社会に関わって生きる姿勢を養うことにもつながる。それは、思考力・判断力・表現力等、児童が将来にわたって必要とする力を育む。また、6月に公職選挙法が改正され、

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、主権者教育を充実させるためにも新聞に触れることがますます重要になってくる。そこで、NIEを通じて、児童が一人一人「問い」をもち、主体的に社会と向き合うことは、学力向上にとどまらず、キャリア教育の目指している社会人・職業人として自立していく「生きる力」の育成につながると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

国語科におけるNIEの実践を通して、一人一人が「問い」を発し、思考を深め、主体的に表現する児童の育成について究明する。

3 研究の仮説

国語科において、教師が新聞を活用して、思考を深める学習指導計画の工夫を行えば、児童は、「問い」を発し、主体的に表現し、学びを生活につなげることができるであろう。

4 研究の内容

- 1 一人一人が「問い」を発する導入の工夫
- 2 思考を深める学習指導計画の工夫
- 3 主体的に表現する児童育成の手立て

5 研究の実際

- 1 一人一人が「問い」を発する導入の工夫
(1) 「問い」を発する導入の意義

「問い」は、「なぜ?」「どうして?」という児童の学びの原点である。児童が自ら「問い」を見つけることができれば、課題解決に向け考えを深めることができる。そこで、導入で効果的に新聞記事を活用することで、一人一人が「問い」を発し、学びをはじめると考えた。

(2) 「問い」を発する導入の実際

第6学年の国語科、単元名「町の未来をえがこう～町の幸福論～コミュニティデザインを考える」での導入の実際である。隣の町、日之影町の町おこしの新聞記事をもとに、自分たちの町高千穂について一人一人が「問い」を発し、学びを始めるような導入を工夫した。

学習指導計画 第6学年 説明的な文章における実践

単元名	町の未来をえがこう～町の幸福論～コミュニティデザインを考える。
単元の目標	○ 複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用することができる。 ○ 意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用して発表することができる。
時	学習活動
1	<p>1 学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣の町日之影町の新聞記事をもとに、自分たちの住んでいる町は、「なぜ人口が減ってきているのか。」それを、「どうすればよいのか」という「問い」について考えてプレゼンテーションを行うという学習課題を確認する。 <p>【問いを発する導入の工夫】 新聞記事を見て、話し合う。</p> <p>教師 隣の町日之影町は、宮城県の中で2040年の消滅市町村第1位です。そこで、この新聞記事を読んで考えたこと、感じたことを教えてください。</p> <p>児童① 町民でどう活字化するかを悩んでいます。</p> <p>児童② 高千穂町も第4位。人口ではないですか。</p> <p>児童③ なぜ、人口が減ってきているんですか。</p> <p>児童④ 若い人が都会に出ていくからじゃないですか。</p> <p>教師 どうして若い人が都会に出ていくと思いますか。</p> <p>児童⑤ 働く場所がないからです。</p> <p>児童⑥ それだけじゃないやろ。(つぶやき)</p> <p>教師 働くところがないから、みんなが大人になった時、高千穂町がなくなってしまうんじゃないか。</p> <p>児童 いやだ。可也。(全員が強く反対を示す)</p> <p>教師 どうしようか。</p> <p>児童⑦ それからどうすればよいのか。ぼくたちが考えていけばよいと思います。</p> <p>教師 はい。では、ここにちょうど「町の幸福論」という教材文があります。これを見てがかりに学びを始めていきましょう。</p>
2	<p>2 「町の幸福論」の内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 「町の幸福論」と並行して、町づくりについての本や資料などを読んでいく。 ※ 町おこしに関する新聞スクラップも行う。 本文を速読し、序論・本論・結論の文章構成を取らえる。 文章の内容を読み取るともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確認する。 文章の要旨を読み取り、筆者のメッセージを踏まえて、町の未来についての自分の考えをもつ。
6	<p>3 町の未来についてプレゼンテーションを行う準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに並行して読んできたものも含め、様々な本や資料、新聞記事、インタビューなどから情報を集める。 プレゼンテーションの構成を考え、必要な資料を作成して、発表の練習を行う。
11	<p>4 プレゼンテーションによる発表を行い、意見の交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに順にプレゼンテーションを行う。 ほかのグループの発表を聞き、提案の内容や発表の構成、分かりやすさなどについて感想を述べあったり、助言し合ったりする。
13	<p>5 さまざまな情報を活用して内容を考え、聞き手を意識して、効果的なプレゼンテーションを行うことができたか振り返る。</p>

【資料1 説明的な文章における授業実践の学習指導計画】

2 思考を深める学習指導計画の工夫

(1) 思考を深めるとは

例えば文学的な文章において、主題に迫るため、自分の考えと友達の考えを比較して、同じところや違うところを比較・検討していく必要がある。初発の感想と学習後の主題の捉え方は、高まっていなければいけない。それを思考が深まった状態と捉え、1単位時間の授業の中で特に意識した。さらに、その学習指導計画の中で新聞を活用すると、1単位時間ごとに培った思考は、さらに深まるのではないかと考えた。

(2) 思考を深める学習指導計画の実際

ア 各教科等とのつながり

単元を貫く言語活動を効果的に行うために、国語科における既習事項はもちろん、教科間や、行事等とのつながりを意識して授業を展開していくことが大切となる。

児童は、10月に道徳の授業で、第二次世界大戦当時の新聞記事や副読本から、命の尊さを学んだ。「絶望の中で見つけた光」という資料と、自分たちが1学期からスクラップしてきた新聞記事を手を、授業を進めた。その後、長崎へ修学旅行へ行き、平和への願いや命の尊さを学んだ。そして、「ヒロシマのうた」の学習に入った。

〈各教科等とのつながり〉

道徳「絶望の中で見つけた光」10/22

修学旅行 10 /28～30

国語「ヒロシマのうた」11/16～27

戦争や平和に関する新聞記事スクラップ



【資料2 導入で活用した新聞記事 8月11日 宮崎日々新聞】

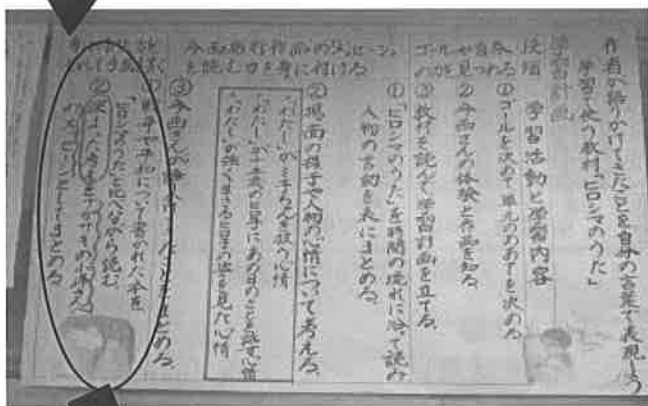
イ 「ヒロシマのうた」での実践

第6学年の国語科、単元名「作者が語りかけてきたことを、自分の言葉で表現しよう～ヒロシマのうた」での実践である。単元を貫く言語活動として、深まった考えを、修学旅行での語り部だったナガサキの小峰さんにメッセージとしてまとめ、手紙を書くことを位置づけた。その間も、夏休みから継続して戦争に関する記事をスクラップしていかせ、授業の終末で取り入れた。

学習指導計画 第6学年 文学的な文章における実践

時	主な学習活動及び学習内容	評価計画 (評価方法)
2	<p>1 学習のゴールの姿を知り、単元の心あてきを設定する。</p> <p>戦争や平和について書かれた雑誌の本や新聞記事を読み、自分自身の感想語り部の小峰さんにメッセージを伝えよう。</p> <p>2 教材を速読し、単元の学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全文通読 ○ 初稿の感想 ○ 学習計画立て ○ 新聞漢字練習と語句の補足 <p>3 「ヒロシマのうた」と並行して、戦争や平和について書かれた関連する雑誌の本や新聞記事を読む。</p>	<p>M: 戦争や平和を扱った雑誌の本や新聞記事を読むことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしているか。(行動観察・発言)</p> <p>書1 文章における語句と語句との関係を理解しているか。</p>
5	<p>2 今回の発行作品の「メッセージ」を読め力を身に付ける。</p> <p>① 「ヒロシマのうた」を時間の流れに沿って読む。人物の行動を捉えまとめる。(1)</p> <p>② 「ヒロシマのうた」に描かれている人物の心情を読み取り、根拠をもとに伝える。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「わたし」がミチちゃんを救う心情 ○ 「わたし」が十五歳のヒロシマにあの日のことを話す心情 ○ 「わたし」が働く生きるヒロシマの家を見た心情 <p>③ 作品のメッセージについて話し合い、考えをまとめる。</p>	<p>戦: 時間の流れや場面転換などをとらえることができるか。(ワークシート)</p> <p>読: 人物の心情を読み取る。</p> <p>新聞スクラップノートの戦争関連の記事を利用して思考を深めることができるか。(行動観察・ノート)</p>
2	<p>3 身に付けた力をあかす。</p> <p>④ これまでに読んだ本や新聞記事を選び読み、特に印象に残った本や「ヒロシマのうた」との共通点や相違点を考え、選んだ本と交流する。</p> <p>深まった考えを「ナガサキのうた」として自分自身の語り部の小峰さんへのメッセージを書く。</p>	<p>読: 関連する雑誌の本や新聞記事を読み比べながら読み、より深く作品を味わうことができるか。(ノート)</p> <p>書: 自分の考えや感想が読み手に伝わるように、表現の効果を確かめたり工夫したりしてメッセージを書くことができるか。</p>

【資料3 文学的な文章における授業実践の学習指導計画】



【資料4 学習計画表】



【資料5 小峰さんへあてた手紙】

3 主体的に表現する児童育成の手立て

(1) 主体的に表現する児童とは

静まり返った教室に、コツコツと鉛筆の音だけが聞こえる。思いや考えを誰かに伝えたくて文字に託して表現する。今の自分の気持ちを伝えたくて、我先に手を挙げ意見を述べる。友達の意見と自分の意見を比べ、また一人また一人と発表をつなげていく。主体的に表現するとは、児童が、自分の思いや考えを相手に伝えたくて、文字言語や音声言語にする姿と捉える。

(2) 主体的に表現する児童育成の手立て

ア 週末の課題としての新聞活用

新聞購読をしている家庭は、5年生の4月の段階で48%であった。新聞を手にする家庭環境は整っておらず、週末の課題で新聞記事の視写を行うことから始めた。2学期から新聞記事を選び、不思議に思ったことや初めて知ったことにラインを引かせ、要約し、感想を書くというプリントを3月まで続けた。

表現する力が身に付けば、主体的に表現し始めると考えたからである。6年生になると、新聞スクラップノートに替えた。今では、記事に対して自分なりに見出しを付け、要約し、意見を書けるまでになってきた。



【資料6 新聞記事プリント】

【資料7 新聞スクラップノート】

イ 単元を貫く言語活動での新聞活用

国語科で学んだことを、自分の生活につなげるために、単元を貫く言語活動のゴールを生活に身近なところで設定することを意識してきた。そうすることで、児童は、学びを自分のこととして捉え、自ら思考を深めていき、主体的に表現すると考えたからである。以下の実践は、「新聞の投書を読んで意見を書こう」という授業の後、実際に自分たちで意見文を書き、投書し、掲載されたものである。

やさしい新聞記者さんの投書
 高千穂小5年 山中 誠
 私は、一月に一回でも新聞で、その記事を読みます。そのなかで、今日の授業をとても楽しんでいます。でも、もう少し記事もありませんか。それは、何か質問されたら、きちんと答えてくれるといいのですが、しかし、今日は

【資料8 「新聞を読んで意見を書こう」の学習計画表】

目的が新聞の構成や記者の仕事の事などをわかりやすく説明して、児童の心を育てていくこと。児童が主体的に意見を述べ、心に残っている事は、記事の構成や記者の仕事の事などをわかりやすく説明して、児童の心を育てていくこと。児童が主体的に意見を述べ、心に残っている事は、記事の構成や記者の仕事の事などをわかりやすく説明して、児童の心を育てていくこと。

【資料9 10月5日に掲載された児童の意見文】

【資料9 10月5日に掲載された児童の意見文】

ウ 毎日のスピーチでの新聞活用

国語の教科書では、4月に「新聞記事について話そう」と年間を通して継続的に取り組める活動を提示している。そこで、朝の会や帰りの会のスピーチで取り組んでいった。最初はスポーツや地域の記事が多かったが、最近では社会に広く目を向けるものも増えてきている。



【資料10 スピーチの様子】

エ 新聞作りの参考にした新聞活用

学習のまとめで行う新聞づくり。事柄の羅列だけであったものが、見出しを工夫したり4コマ漫画を活用したりして、読み手を意識してまとめることができた。



【資料11 新聞作り】

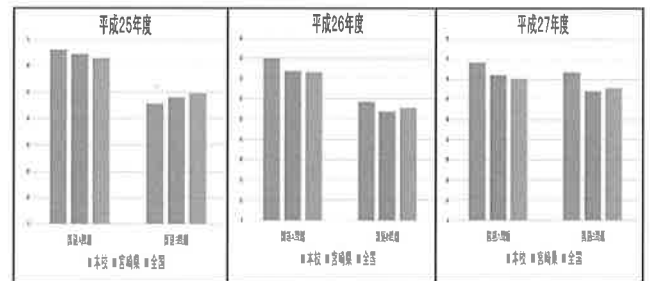
6 分析と考察

1 児童と保護者の実態調査から

2年前、新聞を手にする児童の割合は11%（家庭の購読率48%）であった。現在では、100%の児童が週に1回は新聞を手にするようになってきている。児童、保護者とも、新聞を活用した授業は良いことであると全員答えている。その主な理由は、新聞はものの見方や考え方を広げてくれるからというものが多かった。

2 全国学力・学習状況調査結果から

今年も、文部科学省の全国学力・学習状況調査では、算数・国語ともに、新聞を読む児童は、新聞を読まない児童に比べ、正答率が高いということが明らかになった。これは、学力の高い児童が新聞を読んでいることが分かるだけで、新聞を読むことが、児童の学力を向上させるとは言い切れない。しかし、本校では、以下のグラフから分かるように、NIEに取り組み始めた平成25年度から、国語科において学力の伸びが確認できたことは事実である。



【資料12 全国学力・学習状況調査結果】

7 成果と課題

- 新聞を活用して、一人一人が「問い」を發する導入の工夫を行うことで、児童は意欲的に学びを進めていくことができた。
- 新聞を活用した思考を深める学習指導計画の工夫を行い、表現するための手立てを講じることで、児童は主体的に表現し、学びを自分の生活につなげて考えられるようになってきた。
- 新聞を通して自分が生きている社会の動きを理解し、主体的に社会に関わって生きようとする姿勢を身に付け始めている。
- 今後は他教科でのNIEの実践を通して主体的に表現する児童の育成をめざしたい。

〈参考文献〉

- NIEニュース第80号（日本新聞協会）
- 2014年度NIE実践報告書（秋田NIE推進協議会）